

平成29年 9月25日

長与町議会  
議長 内村 博法

### 研修報告書

長与町議会議員研修要綱第7条の2の規定により、次のとおり公表します。

1. 研修名（主催者） 県下町村議会議員研修会（長崎県町村議会議長会）
2. 研修日時 平成29年7月3日（月）13時00分開会
3. 研修先 長崎県市町村会館6階  
（長崎市栄町4-9 TEL095-827-5511）
4. 研修目的 議員の資質向上に資するため
5. 所見 （記載は議席番号順）

【浦川 圭一議員】

・「これから求められる町村議会の役割」について

これからの議会にふさわしい選挙制度について、法律事項ではあるが議員自身も真剣に検討すべき、との説明の中で、大選挙区制の是非とか幅広い人材の立候補を促す工夫を考えるべきでないかとの話がされていたが、私ども議員は現行、法に定められた制度により議員に選ばれ活動をしている状況であり、選挙制度、また議員に対する条件、処遇について、幅広い人材の立候補を促すという名目で、あまりにも厚遇するような条件は、議員自らが発信するものではないと考えているので、この部分については少し違和感をもった。

・「今後の政局・政治展望を探る」について

大変興味深く面白い話もあったが、各マスコミの偏った論調への批判が主だったのかなと感じている、テレビ等マスコミの報道についてはほぼ信用できないとの見解については、そういうものかと思う部分もあった。

その後には本題に関する持論が述べられたが、参考までに留めるとした。

【中村 美穂議員】

今回の研修では二名の講師の方に講演していただいた。最初は駒沢大学 法学部教授の大山礼子氏による「これから求められる町村議会の役割」という演題で、議会をとりまく環境について、議会が住民から住民代表機関として信頼されていないのではないかと、選挙制度について、議会改革などの内容であった。議会は重要性を増しているはずなのに、選挙の投票率は下がり、無投票も増えている。議会をもっと住民の目に見えるものにシなくてはならない。そこで、長野県飯綱町の議会政策サポーター制度、住民との協働による政策作りの試みの例やイギリス議会、グラスゴー議会の取り組みも紹介された。これからは、社会教育の場としても、議員力だけでなく住民力の向上も重要であるとの事だった。

次のジャーナリスト・東海大学教授の末廷吉正氏による「今後の政局・政治展望を探る」という演題であったが、先日行われた都議会議員選挙、国政の問題などをジャーナリストの視点でいろいろと話された。それぞれの思いもあるため、情報としてどこまでが真実なのかは難しい内容だと感じた。

本町でも議会改革、開かれた議会をと取り組んでいるが、定数削減だけが改革ではなく、住民に興味を持ってもらい議会と住民との距離がもっと近くなるようにしなければならないと思う。

【安部 都議員】

1, これから求められる町村議会の役割（大山礼子氏）

昨今、地方議会での相次ぐ不祥事により、住民代表機関として信頼が揺らいできている。又、少子高齢化とグローバル化するなかで、地域社会の疲弊が始まっていることであった。これからますます、多様な民意を反映し、合意形成し地域に根ざした政策立案が重要だとのことであった。低投票率、無投票当選、議員の偏りなどが、住民代表との意識に繋がっていないとのこと。地域議会の議員数も減少し、女性議員も増員しない、そのような理由も鑑み、大選挙区制の是非や、幅広い人材の立候補を促す工夫が必須ではないかとの提案もあった。議会基本条例制定も701議会あり、4分の1が町村議会であるのに、機能していないとのことであった。もっと多くの住民との情報を共有し、

行政監視のアイデアをもらい、政策作りをするべきとの事であった。公聴会、参考人制度もますます活用し、議会の顔の見える化していかなければならない。長野県飯綱町、グラスゴー議会、フランスのオートサヴォワ県議会、イギリス議会の先進地例も参考になり新しい発見でもあった。今後、より創意工夫が必要だと感じた。より一層住民の求める議会と住民力の向上も図るため政治教育、有権者教育の充実も図ることも不可欠だと感じた。

## 2、「今後の政局・政治展望を探る」末延 吉正氏

先ずは、最低のジャーナリストの偏りすぎた発言だったのは、本当に残念だった。議員の資質向上の講演とは程遠い講演内容だったのは、がっかりだ。内容としては、ひどすぎる。安倍政権に反対する野党やリベラル政党に対する暴言、暴挙、失言のオンパレードであった。

これまでの講演のなかで、勉強にならない講演は久々だ。町村議会のもっと優れた人選を選ぶべきだ。内容を語るまでもないと思う。

### 【安藤 克彦議員】

講師 大山礼子（駒澤大学教授）

低投票率、無投票、議員の偏り等の理由により、「議会は住民を代表しているのか」と。本当に議会の信頼を回復するため選挙制度について議員も考える時期にきているのではと提言された。論点としては大選挙区制の是非や幅広い人材の立候補を促す工夫が大切と感じた。本町レベルでの大選挙区制については議論にならない感があるが、投票方法の変更である制限連記制は議員の多様化の観点からも興味深い取組の一つであると感じた。

幅広い人材の立候補を促す工夫として、被選挙年齢の引き下げや兼職制限の緩和、選挙運動規制（特に戸別訪問の禁止）を提言されたが、どれも法的な縛りがあり議長会等で提言をしながら、国民的な議論を行う必要がある。

開かれた議会を目指す本町議会は議会基本条例を制定し各種広報広聴をはじめ、委員会の原則公開、参考人制度の活用等、様々な取組を行ってきた。しかし実際、アンケート結果でも分かるとおり町民の評価は高くない。

本当に町民が議会に求めるところを的確に把握し今後の議会改革を進めていく必要があると感じた。

講師 末延吉正（ジャーナリスト/東海大学教授）

元テレビ局勤務で報道に携わった講師が退職後に大学教授となり、テレビを痛烈に批判。でも、ご自身は今でもテレビコメンテーターとして活躍しているという矛盾に感じ

る状況での講話であった。政治家論には納得する部分もあるが、ご自身の政権中枢との太いつながりや政局の裏話は、議長会主催の研修会で何う話ではないと感じた。

#### 【金子 恵議員】

「これから求められる町村議会の役割」 大山礼子氏

様々な地域社会の環境の変化の中で、今こそ議会の役割が大切になってきたことを、再度考え直す時間になった。何が目的で議員になったのか、住民の代表として地域の声を届けることができているのか、自分自身の中で、ある程度、初心に戻り再考することが必要ではないかと痛感している。

今回の研修は、様々な視点からのデータを用いたもので、わかりやすかった。しかし、議会改革を進める人たち（大学の教授）の考え方はそれぞれであり、その中から、いいとこどりをしながら、本町議会にあった改革を推進していくべきと考えている。今の時代、旧態依然の議会運営では見える化は実行できない。新しい考え方を取り入れつつ、身近な議会の推進に努めたい。

「今後の政局・政治展開を探る」 末延吉正氏

ジャーナリストである氏の、話の内容は時事ネタとして面白かった。

しかし、研修として偏った考え方を持つ人の講演が資質向上に役立つかということには疑問が残る。

ジャーナリストは、時事問題など、その時々様々な問題に対し、自身の見方、考え方を基に解説、批判をすることが仕事である。党派によっては、反発を感じるだろう。また、賛成派も多数、存在するとも考える。三面記事的な聞き方をするのであれば、テレビの中から飛び出してきたような内容に笑いはこぼれるが、議員として・・・と言われると考えてしまう。

#### 【分部 和弘議員】

(1)「これから求められる町村議会の役割」

議会改革を進めるうえで、①住民から見て、わかりやすい議会であるか ②少子高齢化の時代において多様な民意を反映しているか ③投票率の低さ、増えない女性議員、議員の高齢化など課題は山積しています。そのような中、行政監視、政策立案に向けて議会と住民との協働は、ますます重要になってきています。住民に見える議会、住民と共に歩む議会の構築に向け、上記に挙げた課題を一つ一つクリアすることで、大きく前進することが、これからの議会に求められているものと思いました。

## (2)「今後の政局・政治展望を探る」

これまでの政治の流れからメディア情報での世間の対応や、日頃聞けない部分を含めユーモアを交えながらの内容で充実した研修であったと思います。特に新聞情報やテレビなど私たちが身近に見ているものでも、情報の質の違いでかなり印象が違ってくるとや、これからの政治展望がどのように展開されていくのかを、わかりやすく説明して頂き、今後の政治・政局の流れが楽しみになりました。

### 【西岡 克之議員】

#### 「これから求められる町村議会の役割」

氏はまず議会を取り巻く環境から説明され、議会の重要性を講義された。近年町村合併により議員数の減少をグラフで講義していただいたが、その中で最も減少しているのが町村議会議員だと講義してくれた。何故、その町村議会議員が減少しているかというと、住民に対して信頼を確保していない、住民を代表していない、住民の意見を反映していない、住民と情報を共有していない。などの事を上げていた。その結果1、低投票率 2、無投票当選 3、議員の偏りなどを挙げていた。かつて議会改革の先駆者的存在の栗山町でさえ無投票当選だったと聞くと果たしてこれでよかったのかと考える。

本町の議会も議会改革で、議会基本条例を作成し議会報告会など実施しているが、住民の方々の評判は今一つだ。議会の自己満足に終わっているのではないだろうか。私が考えるには住民の方々の望んでいる議会とは全く方向性が違うのではないかと考える。

報酬削減をするからいい人材が集まりにくい、定数削減したからいい人材が残るのかとゆうとそうではない。大山氏は選挙制度の改革が必要だと言われるが私はそこに至るまでには、まだ様々な制度、法律の改革が必要でかなり時間を要する。今できることは、報酬を引き上げ、年金をつけて優秀な人材を選挙で求め、その上でもっと議会の事を住民にアピールすることが大切なのではないだろうか。

#### 「今後の政局・政治展望を探る」

ダイナミックな語り口で最新の政治状況を聞いて大変に良かった。講演の中でメディアとは真ん中との意味は考えさせられた。マスコミの諸君ももっと真ん中の真実を伝えるべきだ。

### 【岩永 政則議員】

今回の研修は、

- 1つには、『これから求められる町村議会の役割』と題して、大山 礼子先生（駒澤大学）
- 2つには、『今後の政局・政治展望を探る』として、末延 吉正先生（ジャーナリスト）

／東海大学教授)である。

まず大山先生の『これから求められる町村議会の役割』の講演の中から紙面の都合もあり、主な1、2点について記すこととする。

大山先生は、駒澤大学法学部教授で、主な略歴としては、国立国会図書館勤務、聖学院大学教授、衆議院選挙区画定審議会委員を歴任され、専攻は政治制度論である。

講演の順序として、始めには、【今日の議会をとりまく環境】として

- ① 町村議会は住民から「住民代表機関」として信頼されているのだろうか?と問題提起された。
- ② 地方議会で相次ぐ不祥事を指摘。特に、長崎市の政務活動費の取り扱い方の指摘があった。
- ③ 定数削減、手当て引き下げばかりが改革の論点になる不幸との指摘もあった。  
頭に浮かんだのが、今日長与町では、特別委員会を立ち上げ、議員報酬の議論の真っ最中である。この指摘を念頭において、早期に結論を見出さなければならないと感じたところである。
- ④ 首長による議会攻撃――

――首長も「住民代表」と言えるのかの指摘。

これは、小池東京都知事が都民ファーストの代表として、都議会議員の選挙を主導。地方自治法上の、二元代表制のあり方を憂慮された指摘であろうと思う。

このことは、他に自治体のことと傍観することなく、わが町、県でもあり得ることと認識すべきである。と感じたところである。

次には、【ますます重要になる議会の役割】として

議会の役割は今後ますます重要であり、それは今日の社会現象である、少子高齢化、人口減少社会の到来、地域社会の疲弊からであると分析されている。

住民の幸せづくりに、議員として何をなすべきか、議会全体として何をすべきかが問われているのである。

次には、【重要性を増しているはずなのに、なぜ住民から信頼されないのか?】として

- ①として、地方議会は本当に住民を代表しているのか?
- ②として、地方議会は住民の意見を審議に反映させているか?
- ③として、地方議会は住民と情報を共有しているか?

の指摘があった。

①の、議員は住民を代表しているか?については

\*低投票率・・・投票率が低いこと

\*無投票当選・・・選挙が実施されなければ『住民代表』とは言えない。議員のなり手がいない。

\* 議員の偏り・・・議員の偏りが政策の偏りにつながっていないか？の指摘あり。  
町村議会議員の40歳未満の比率は全体の8.3%、女性の比率は9.5%、職業別の議員専門家は、都道府県議会議員の比率は、53.3%、市議会議員40.5%、町村議会議員21.5%である。わが町はどうだろうか。

この数値から見ても分かるように、40歳以下の若い方々の比率が低く、議員専門家の比率も20パーセント程度である。

老若男女を問わず、自由に立候補しやすい環境の整備が必要である。その一つは、報酬の引き上げに尽きると思われる。誰でも働いて収入を得生活しているのである。今の収入あるいはそれ以上の収入が得られるならば、議員への立候補者も増加が期待できるものである。

特別委員会の奮起を促したい。

②、③については、議会基本条例の制定、議会改革の取り組みなどが行われていながら、なぜか住民の信頼回復や投票率向上、なり手不足の解消につながっていないとの指摘あり。

最後になるが、【何を改革すべきか？】については

\* 首長提案の精査と修正

\* 政策条例

行政が軽視している問題の発掘機能と住民のアイデアも活用が必要

\* 行政監視・・・行政監視の通年化と住民との協働の必要。

\* 予算決算審議の充実・・・予算決算の連動・・・決算審査を次年度予算に反映させることの必要

との示唆をいただいた。

次に、『今後の政局・政治展望を探る』については、ジャーナリストで東海大学教授の末延吉正先生の講演を拝聴した。

末延先生は、よくテレビに出演されておられますが、略歴を拝見して初めて知り得たことがあった。

それは、バンコク市局長などを歴任。湾岸戦争では米軍に従軍取材を行ったとの事。

危険と隣り合わせの、大変な業務であったはずである。敬意を表したい。

講演の内容についての感じ得たことについては、人それぞれであろうと思う。コメントは差し控えたい。

情報過多に時代の中で、身近には県町村議会会、郡正副議長会の講演を中心とした研修の場がある。一言苦言を呈しておく。それは、それぞれの会があるからといって、また内容も同じようなこのような研修の場を設けなければならないと義務化されてはい

ないのである。時も同時期である。一考を要するよう感じませんか。

最後にではあるが、様々な有識者からの講演を我なりに分析、理解しながら、想像をめぐらし、町民の幸せづくりに今後共努力したいものである。

#### 【喜々津 英世議員】

(1)「これから求められる町村議会の役割」 駒澤大学法学部教授 大山 礼子 氏

議会基本条例の制定など、議会改革に取り組んでいる議会は増えている。改革と言えば「議員定数削減、議員報酬・手当の引き下げ」は住民の関心事であるが、政務調査費の不正使用など議会における不祥事などもあり、選挙の投票率向上、議員のなり手不足の解消、地域住民からの信頼回復にはつながっていないとの話は納得できた。

重要性が増しているのに、議会はなぜ住民から信頼されないのかとして、①議会は、本当に住民を代表しているか ②議会は、住民の意見を審議に反映させているか ③議会は、住民と情報を共有しているか 一の3点のチェックが重要となるとのことだが、住民の声を聴いて意見を言うことも重要であるが、議員には、町政の健全な発展の責務があることを忘れてはならない。

住民との情報共有の面では、議会だより、議会ホームページでの公開(一般質問通告書、議案書等)、議会中継(録画を含む)、傍聴者への議案書の貸与、議会報告会及び住民懇談会の開催等、情報公開にはあらゆる手段を講じて努力しているが、議会への関心は薄い。信頼を勝ち取る努力に限界はないと思っている。

(2)「今後の政局・政治展望を探る」 ジャーナリスト/東海大学教授 末延 吉正 氏

末延教授のテレビ朝日時代は、朝日新聞系列の放送であり、時の政権を舌鋒鋭く攻撃していたが、余りの変わりように驚いた。森友学園問題、加計学園問題、閣僚の舌禍問題など、政治ネタが豊富な時期であり話は面白かったが、マスコミ報道の範囲内であり内容は省略する。

小池都政は、選挙で圧勝した都民ファーストの会が与党になり、これまでの知事時代の自民党与党と同じである。違うのは若い、素人の議員が多いことから、議員間の内紛・ボロが出れば行き詰るとのことであった。

「メディアに騙されない、正しい情報・情報の質を見る目を養い、悪い情報をはねつける意識を持つことが重要である」とのことは参考になった。

#### 【山口 憲一郎議員】

「これから求められる町村議会の役割」 駒澤大学法学部 大山 礼子

・住民に信頼される「住民代表機関」になるために必要な条件は



⇒ なぜ住民から信頼されないのか。

- ①地方議会は本当に住民を代表しているか。
- ②地方議会は住民の意見を審議に反映されているか。
- ③地方議会は住民と情報を共有しているか。

・議会は支持者の意見だけ聞いてはダメ！

日ごろ付き合いのない住民からも政策、提言や行政監視のアイデアをもらうべき。

・議会改革を進めると同時に住民へのアピールも必要。

全国的に議会改革が進んでいる中で、真新しいものはなかったが、これからの議会に役立たせていきたい。

「今後の政局・政治展望を探る」 ジャーナリスト／東海大学教授 末延 吉正

講話については政局の裏話的に非常におもしろい話であったが、特に議会に役立つものではなかった。今後の政局がどのようになっていくのか興味深い。

【堤 理志議員】

講演 1、「これから求められる町村議会の役割」（駒澤大学法学部教授 大山礼子氏）

少子高齢化、グローバル化の中、市町村数が減少し、町村議員のなり手不足が進行している現状の説明。

さらに地方議会は重要性が増しているのに、なぜ信頼されないかと問い、「国会の小選挙区」、「議論させない」、「資料を出さない」などを例に住民感覚からずれている点を指摘された。

また、地方議員の職業、年齢などの偏りが住民の代表機関として政策、優先度の偏りにつながっているのではないかと指摘がなされた。

本町議会でも議員定数の動きがあった時、私自身、一定の組織力や地縁血縁がある議員でないと当選が難しくなり、小規模集落や農業者の議員が不足する懸念を訴えた。そういう点でも「定数削減＝議会改革」であるかのような風潮には、議会制度、住民自治の観点から、警鐘をならし続けるべきと感じる。

講師多くの正論を述べられ同意する点が多いが、いくつか対案のうち、投票の際の複数連記、住所要件の緩和（条件付き住民以外の投票権）などについては実現性や正当性に疑問を感じざるをえない。

大都市部に人が集中する現在の社会のあり方を変える方策を通じて地方の経済、社会を活性化するしかないと感じる。

## 講演 2、「今後の政局・政治展望を探る」ジャーナリスト／東海大学教授 末延吉正氏

安倍晋三総理大臣に近い人物であることは事前に分かっていたが、どのような話をするのか参考になればと思い聴講した。

- 行政批判すると大学の研究費を削られる…。(大学自治権の侵害を許容?)
- 議員は政務調査費(活動費)でちょっと酒を飲むだけで怒られ大変。
- 木村草太(憲法学者)のようなクソガキに何がわかるのか。
- 加計学園問題は朝日が悪く書いて国民を煽った。
- 前川喜平(前文科事務次官)が行った場所は管理売春の施設。

など、安倍政権と違う立場やレベルに対するすさまじい憎悪に満ちた講演であった。(前川喜平氏が売春や猥褻行為をした事実は出ていない)

ちなみに委員長研修会(平成28年8月25日)の講師(全国都道府県議会議長会元議事調査部長 野村稔氏)は

- 政務調査費に領収書添付必要なし。
- 本音を話す時は傍聴者退席させればよい。
- 討論が長い議員、討論時間を制限したらよい。

などの発言があった。

研修の目的は議員の資質向上であるが、講師の言動が議員の資質向上につながるのか、また品性を問われる発言内容ではないのか指摘せざるをえない。町村議長会の講師選定のあり方を、常識ある人にするよう繰り返し問題提起しているが、現段階までそうならない。

【河野 龍二議員】

「これから求められる、町村議会の役割」

講師 大山礼子(駒沢大学法学部教授)

議会をとりまく環境での、「議会は住民代表の機関として信頼されているか」「地方議会の不祥事」「定数削減ばかりが改革の論点の不幸」・・・などの状況は、本町にとっても大きな課題であると感じる。

全国的にも、過疎化が進む自治体での議会の役割は大きいはずなのに、説明でもあった町村議会議員の減少は危機的状況にある。県議会を含む地方議員の数は平成10年には63,140人いたのが、平成27年には33,165人と半減している。

特に、町村議員は平成 10 年から 4 分の 1 に減少している。これでは政府が打ち出す、地方創生などの政策は議論や監視がしっかりできない環境では進むはずがない。そもそも政府による、市町村合併政策がこうした状況を作り出してきたことに原因がある。

また、「国会も議会として落第点」との説明で、このような状態が、地方議会そのものにも影響をうけ、「信頼できない議会」を作り出していると考えられる。そのような積み重ねが、投票率の低下、立候補の減少、無投票の増加を生み出している。

講義の中盤で論点として「選挙制度の改革」が説明された。

論点 1 大選挙区の是非では、確かに地域を区割りし選挙区を小さくすることで、有権者の顔が見え、議員の活動が見える。また得票も大選挙区よりは少なくても当選が可能になり、立候補者も増える可能性はある。しかし、町議会の様に全体定数が少ない所では、かなり難しいハードルになると考えられる。

投票方法の変更も発想としては興味を持つが、現状の選挙制度の中では非常に困難だと思う。

論点 2 幅広い人材の立候補を促す工夫では、現実の課題として、「被選挙権の引き下げ、住所要件の緩和、立候補休暇制度並に議員休暇制度、議員の報酬増加、選挙運動規制の緩和」などは早急に改善してほしいと考える。

いずれにしても選挙制度の改革は法律改正が前提であり、地方議会としても声を上げていく必要があると思うが、政府の審議会などに於いても、地方議会の現状を把握し提言をしていただきたいと思う。

後半では「議会改革が住民になぜ響かないのか」と講義が行われた、説明のように住民に対し十分な情報が提供されていない。いまだ議会が「何をやっているのかわからない」こうした研修報告も、議会のホームページ上に掲載されれば、それで満足してしまっている状況が自分自身にある。

やはり SNS の活用やきめ細かな住民との対話、協議が必要と思う。その点ではこれまでの議員活動を反省しなければならない。

今回の大山氏の講義は、参考になった。

地方議会における課題は、全国的に共通の課題である。共通の課題だからこそ、参考になる事例もたくさんあると思う。しかし、その課題を解決する工夫は、それぞれに議会議員の取り組み姿勢で状況が変わってくると思う。大山氏は最後に、「議会改革と同時に、住民へのアピールも必要」と講義を締めくくった。

「議会改革が進めば、住民は自ずと関心を持ってもらえる」と勘違いしがちであり、やはり「住民不在の議会改革は改革になっていない」と感じた。

今回の講義を受けて、もう一度本町の議会改革のあり方を再検討する必要があると感じた。

尚、引き続き講演「今後の政局・政治展望を探る」末延吉正氏の講演については、事情により参加をしていないので、報告書は未提出。

【吉岡 清彦議員】

1. 「これから求められる町村議会の役割」

(講師) 大山礼子氏 駒澤大学法学部教授

- ・ 少子高齢化→人口減少社会の到来とグローバル化→地域社会の疲弊が起きてくる→よって、地域に根差した政策立案能力が問われる。

2. 「今後の政局・政治展望を探る」

(講師) ジャーナリスト・東海大学教授・元テレビ朝日政治部長 末延吉正氏

- ・ テレビ朝日に居て、自分自身正直に生きようと考えた。よって、論文に残す。
- ・ メディアに騙されてはいけない。
- ・ 政党がメディア化、メディアが政党化している。よって比較してみることに。
- ・ 先々、小池都知事の影響力も低下するであろう。

【竹中 悟議員】

「これから求められる、町村議会の役割」講師 大山礼子（駒沢大学法学部教授）

理想論だと感じた。実態の状況をどのように把握し実践して行かなければならない。非常に参考となった。

【内村 博法議員】

1. 「これから求められる町村議会の役割」について（駒澤大学法学部大山教授）

今回の研修は「これから求められる町村議会の役割」のテーマで幅広く説明された。

要約すると、少子高齢化、人口減少、地域社会の疲弊等の中で、議会の役割は重要性を増しているはずなのになぜ住民から信頼されないのかという根本的な課題を提起された。具体的には①地方議会は本当に住民を代表しているのか②地方議会は住民の意見を審議に反映させているのか③地方議会は住民と情報を共有しているのかという問題提起をされた。その改善策として①選挙制度見直し②行政監視・政策立案に向けて議会と住民との協働（例として長野県飯綱町の議会政策サポーター制度）③外国の事例などを説明された。今回の大山教授の改善策については学ぶべき点が多々あり、大変参考になった。

## 2. 「今後の政局・政治展望を探る」（ジャーナリスト・東海大学末延教授）

テレビ等で良く見かける末延教授であり、今回、上記テーマで色々な角度で説明を受けた。今回の政局や政治展望についてはテレビやインターネット等で良く知られている情報が多かったため、あまり参考にならなかった。

## 6. 欠 席

響庭 敦子議員